

第15回大橋川景観アドバイザー会議 議事要旨

【日時・場所】

日 時：令和元年9月10日（火）13:30～15:00

場 所：国土交通省松江国道事務所 大会議室

【出席者】

大橋川景観アドバイザー会議委員

足立委員、飯野委員、金坂委員、松本委員、山崎委員、吉田委員、大作委員

事務局

出雲河川事務所

【議事次第】

開 会

挨拶（出雲河川事務所長）

委員紹介

議 事（座長の互選等、会議規約の改正、大橋川朝酌矢田地区護岸整備について）

閉 会

【配付資料】

議事次第

席次表

出席者名簿

資料-1 大橋川景観アドバイザー規約

資料-2 大橋川朝酌矢田地区護岸整備説明資料

【議事要旨】

<座長の互選、会議規約の改正>

委員の再委嘱により、改めて座長に飯野公央委員、職務代行として吉田薫委員を選出。委員交代に伴う会議規約改正を承認、9月10日より適用となった。

<朝酌矢田地区護岸整備について>

朝酌矢田地区については指針によると素材2（安山岩系の自然石）を基本としているが、前回会議において、朝酌矢田地区の護岸は中海の湖岸堤整備で不要となった島石の利用を検討し審議することとなったため、島石の利用を含めた「護岸の施工可能範囲と素材や形態について」と「切土法面の地形処理と植生について」事務局案を提案しご意見を伺った。

（以下委員意見）

「護岸の施工可能範囲と素材や形態について」

- ・石積について、布積みといったルールであれば天端をずっとそろえながら積んでいき天端を積むにしても互い違いに積んでいるときは馬目地になるし、同じように積んでいけば芋目地になる。馬とか芋とかルールを決めながら積んでいくのが普通で、布積みでなくても谷積みは斜めのラインにして落とし込むように積んでいく。石垣にはそういうルールがあり、面を比較的石の平な面を外側にして積んでいくのが一つのルール。そのようなルールをなんらか決めていけばもう少しまともな石垣にみえると思う。
- ・流用の島石を使った場合に、谷積みとか布積みをするのは、ある程度石を成型した間知、雑割石的な感じのものがないとなかなかバランスよくはいかないと思う。この流用石を使って、色粉が入っていると石が協調される。色粉がないのはぼわつとした感じで柔らかい感じになっていると思う。対岸から見るときは、石積みのテクスチャは分からないと思う。矢田渡船が行ったり来たりするので近くから見た時でも石のテクスチャが重要なかなと思う。流用の石を使うということであれば、ケース3の石積みバランスはすごくいいと思う。大小さまざまな石が入っているので、要所要所に大きい石を入れ、間詰で入れてという感じで石を積んでいけば良い。天端のところがある程度きちんと線形をそろえれば、このケース3の石積みがこれから施工するにはいい手本になると思う。
- ・布積みとか谷積みはかなり成型された石がないとかなり難しいと思う。有る材料を使ってやるとすると、ケース3でこれをどういう風に組み合わせたら一番よくみえるのかというのがおそらくテーマだと思う。大きい石を最初において、中程度の石を配置

して、その間を小さい石を詰めるようなパターンしか考えられないと思う。ケース2でこれはかなりきれいに積まれたような状態だと思う。ケース4については、これが切り込みはぎという積み方で、かなり石材を加工しないと、こういう風にきっちり目地が合わない。ケース3はおそらく野面石だと思うが、一般的な積み方ではないかと思う。

- ・巨石のみのほうが石と石の間の影がしっかり見えて、見え方としてはいいなと思っている。ケース2とケース3の折衷案的にもう少し目地というか隙間がもっとあって、色粉が入ったモルタル、色粉が入ってなくても経年劣化で汚れてくればいい感じになると思うが、隙間があれば巨石が強調され、隙間も強調され、巨石だけだと330mと伸びがないが、伸びがありつつ、隙間を開けてというふうな、2と3の折衷的なことを目指してもいいと思う。
- ・大きな石ばかりはまかないきれないので無理だと思うし、大きな石ばかりだと松江城の石垣みたいな感じで立派すぎるなという気もしなくもない。配分などは有る分で大中小混ぜても良いと思う。例えば糸を張ってでもそろえるようにして、大中小混ぜても積めば全然違ったものになってくと思う。
- ・護岸素材の変更点は縦に区切ってあって、くっきりと分かれていて見た感じびっくりする。もう少しこうやんわりと移り変わっていくというわけにいかないのか。

「切土法面の地形処理と植生について」

- ・法面の面積が広いので、順調にいくと当初の種子が少しずつ時間とともにおおきくなっていき、大橋川から見たときに大橋川から3つの法面がまともに見えてくる。景観的に見える場所は施工の段階からでも管理体制を地域の住民の方とボランティアをとおして、美しい森づくりというようなスタイルで新たな緑化の維持管理的なものができると良いと思う。
- ・現場を少し歩いてきたが、多賀神社のところもきちんと手入れがされていないので竹がすごい。背後地もその先もうそうだが、荒れ放題になっているところがたくさんあると思う。将来的に、余り住む人も少ないというのもあってどう管理していくのか、維持していくのかというのが大きな課題になると思う。工事をやる前から、どうやってこの景観を維持管理していくのか、10年後20年後どういった姿になっていくのかというのも想定しながら我々は景観を考えないといけないので、管理のことも含めた方針的なものも考えてもらえるとうれしく思う。

- ・竹がもともと繁茂しているようなところであれば、その竹が根を張るのは直ぐだと思
う。竹が生えだせば他の木は生長を阻害され崩れやすくなる。

《まとめ》

- ・島石の施工範囲は多賀神社から矢田の渡しの荷揚場下流側までとし、その他の素材の
範囲も含め事務局案を採用する。
- ・石積みの積み方については、明確なルールを設け、疑問点や変更点があれば委員会に
諮ること。
- ・護岸素材の変化点箇所 C について、和らげる工夫を検討する。
- ・法面緑化については、維持管理についても施工段階から配慮する。また、竹の進入防
止について対策を考慮する。